The essentials of imaging

www.minolta.com

DiMAGE® X

J 使用説明書

基本撮影

撮影モード

再生モード

パソコンで画像を見る

その他

目次

お買い上げありがとうございます。
ミノルタディマージュXは、軽量・コンパクトなボディに光学3倍ズーム機能を搭載したデジタルカメラです。新開発の屈曲光学系の採用により超薄型ボディを達成、メインスイッチを入れるとすぐに撮影ができる快適さに加え、音声付き動画や音声記録も可能です。

ご使用前に、この使用説明書をよくお読みいただき、末永くこの製品をご愛用ください。

正しく安全にお使いいただくために

お買い上げありがとうございます。
ここに示した注意事項は、正しく安全に製品をお使いいただくために、またあなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。よく理解して正しく安全にお使いください。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う危険性が差し迫って生じることが想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が死亡したり、重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

この表示を無視し、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が予想される内容を示しています。

絵表示の例

△記号は、注意を促す内容があることを告げるものです。(左図の場合は発火注意)

リチウムイオン電池 NP-200 について

危険

電池は指定カメラ以外の用途に使用しないでください。また充電には専用の充電器をご使用ください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

電池の分解、改造、加熱、および火中・水中への投入は避けてください。特に端子部分は濡らさないでください。また落としたり、大きな衝撃を与えたりしないでください。
危険防止用の安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。また異常に気づいたときはすぐに使用を中止し、火気から遠ざけてください。

表面が破損した電池は使用しないでください。
電池内部でショート状態となり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

危険

プラス(+)とマイナス(−)を針金などの金属で接続したり、金属製のネックレスやヘアピンなどと一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
ショート状態になり、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

万一電池が液漏れし、液が目に入った場合は、こすらずにきれいな水で洗った後、直ちに医師にご相談ください。液が手や衣服に付着した場合は、水でよく洗い流してください。また、液漏れの起こった製品の使用は中止してください。

適切な温度・湿度条件下で使用や保管を行なってください。
使用時・充電時温度:0℃〜40℃
火のそばや炎天下の車中など(60℃以上になるところ)での使用や充電、保管、放置はしないでください。
高温になると安全機構や保護装置が損傷し、発火、破裂、液漏れの原因となります。10℃以下だと電池の使用可能時間が著しく短くなります。常温(20℃±5℃)でのご使用をおすすめします。
保管時温度:−20℃〜30℃
湿度:45%〜85%

警告

電池を廃棄するときは、テープなどで接点部を絶縁してください。
他の金属と接触すると発熱、破裂、発火の原因となります。お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄するか、リサイクルしてください。

所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は、充電を止めてください。
そのまま充電を続けると、発熱、発火、破裂、液漏れの原因となります。

カメラ・充電器・電池について

⚠ 警告

指定された電池以外を使わないでください。
発火、破裂、液漏れの原因となります。

充電器は国内家庭用電源100ボルト、50/60ヘルツ用です。
それ以外の電圧や周波数では使用しないでください。火災や感電の原因となります。

ACアダプターをご使用になる場合は、専用品を表示された電源電圧で正しくお使いください。
表示以外の電源電圧を使用すると、火災や感電の原因となります。

ご自分で分解、修理、改造をしないでください。
内部には高圧部分があり、触れると感電の原因となります。修理や分解が必要な場合は、お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご依頼ください。

落下や損傷により内部、特にフラッシュ部が露出した場合は、内部に触れないように電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
フラッシュ部には高電圧が加わっていますので、感電の原因となります。またその他の部分も使用を続けると、感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 警告

幼児の口に入るような電池や小さな付属品は、幼児の手の届かないところに保管してください。
幼児が飲み込む原因となります。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師にご相談ください。

製品および付属品を、幼児・子供の手の届く範囲に放置しないでください。
幼児・子供の近くでご使用になる場合は、細心の注意をはらってください。ケガや事故の原因となります。

フラッシュを人の目の近くで発光させないでください。
目の近くでフラッシュを発光すると視力障害を起こす原因となります。

車などの運転者に向けてフラッシュを発光しないでください。
交通事故の原因となります。

自動車などの運転中や歩行中に撮影したり、液晶モニターを見たりしないでください。
転倒や交通事故の原因となります。

ファインダーを通して太陽や強い光を見ないでください。
視力障害や失明の原因となります。

風呂場など湿気の多い場所で使用したり、濡れた手で操作したりしないでください。内部に水が入った場合はすみやかに電池を取り出し（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。
使用を続けると、火災や感電の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションにご連絡ください。

カメラ・充電器・電池について（続き）

⚠ 警告

引火性の高いガスの充満している中や、ガソリン、ベンジン、シンナーの近くで本製品を使用しないでください。また、お手入れの際にアルコール、ベンジン、シンナー等の引火性溶剤は使用しないでください。
爆発や火災の原因となります。

充電器やACアダプターをご使用の場合、電源コードに重いものを乗せたり、無理に曲げたり、引っ張ったり、傷つけたり、加熱、破損および加工したりしないでください。またコンセントから抜くときは、電源プラグを持って抜いてください。
コードが傷むと火災や感電の原因となります。コードが傷んだら、販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに交換をご依頼ください。

万一使用中に高熱、焦げ臭い、煙が出るなどの異常を感じたら、すみやかに電池を抜き（充電器やACアダプターの場合は電源プラグをコンセントから抜き）、使用を中止してください。電池も高温になっていることがありますので、火傷には十分ご注意ください。
使用を続けると感電、火傷、火災の原因となります。お買い求めの販売店または最寄りの弊社サービスセンター・サービスステーションに修理をご依頼ください。

⚠ 注意

車のトランクやダッシュボードなど、高温や多湿になるところでの使用や保管は避けてください。
外装が変形したり、電池の液漏れ、発熱、破裂による火災、火傷、ケガの原因となります。

⚠ 注意

長時間使用される場合は、皮膚を触れたままにしないでください。
本体の温度が高くなり、低温やけどの原因となることがあります。

長時間の使用後は、すぐに電池やカードを取り出さないでください。
電池が熱くなっているため火傷の原因となります。電源を切って温度が下がるまでしばらくお待ちください。

発光部に皮膚や物を密着させた状態で、フラッシュを発光させないでください。
発光時に発光部が熱くなり、火傷の原因となります。

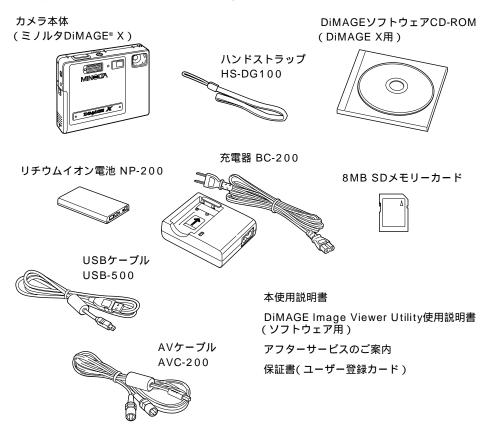
液晶モニターを強く押したり、衝撃を与えたりしないでください。
液晶モニターが割れるとケガの原因となり、中の液体に触れると炎症の原因となります。中の液体に触れてしまった場合は、水でよく洗い流してください。万一目に入った場合は、洗い流した後医師にご相談ください。

充電器やACアダプター使用時は、電源プラグは差し込みの奥までしっかりと差し込んでください。
電源プラグが傷ついていたり、差し込みがゆるい場合は使用しないでください。火災や感電の原因となります。

充電器やACアダプターを布や布団で覆ったり、周りに物を置いたりしないでください。
熱により変形して感電や火災の原因となったり、非常時にアダプターが抜けなくなったりします。

お手入れの際や長期間使用しないときは、充電器やACアダプターの電源プラグをコンセントから抜いてください。
火災や感電の原因となります。

内容物の確認

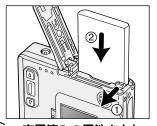
お買い上げのパッケージに梱包されているのは以下の通りです。ご確認の上、不備な点がございましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

ユーザー登録について

本製品をご使用になる前に、お早めにユーザー登録をお済ませください。同梱されているユーザー登録カードに記載の弊社ホームページでオンライン登録を行なうか、登録カードに記入して送付してください。

Windows®およびMicrosoft®は、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Macintosh、Mac OSおよびQuickTimeは、米国アップルコンピュータ社の米国およびその他の国における商標です。
SDロゴは商標です。
その他の会社名や製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は家庭環境で使用されることを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受像機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書にしたがって正しい取り扱いをしてください。

早分かり　詳しくは本文をご覧ください。

準備をする

1. 充電済みの電池を入れます。→P.19
2. カードを入れます。→P.22

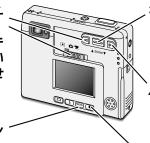
撮影する →P.28

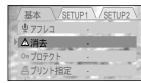
1. メインスイッチを押して電源を入れます。
2. モード切り替えレバーを📷・🎥に合わせます。
3. 上下レバーで撮りたいものの大きさを決めます。
4. シャッターボタンを押して撮影します。

再生する →P.34、66

1. モード切り替えレバーを▶に合わせます。
2. 左右キーで見たい画像を選びます。

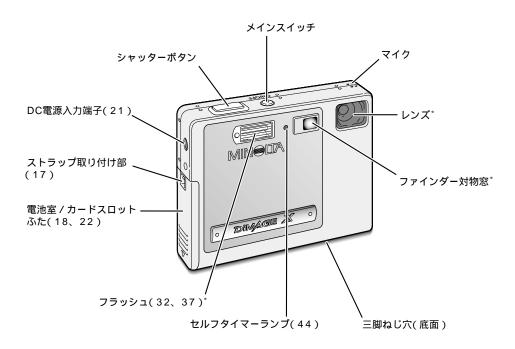
消去する →P.78

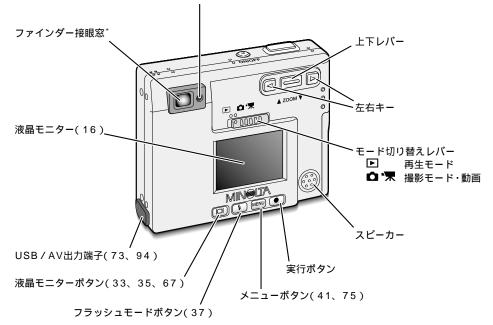
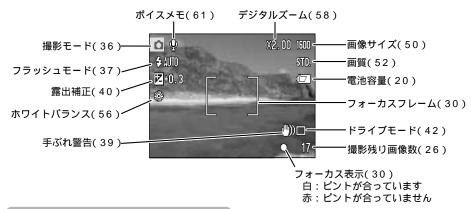
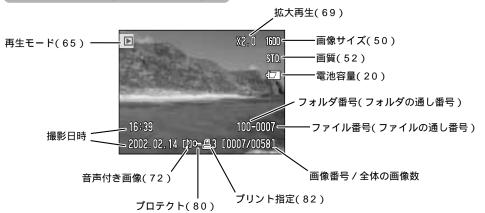
1. モード切り替えレバーを▶に合わせ、左右キーで消去したい画像を表示させます。
2. メニューボタンを押します。
3. 上下レバーで「⚠消去」を選びます。
4. 右キーで「このコマ」を反転させます。

基本　SETUP1　SETUP2
アフレコ
⚠消去　▶このコマ
プロテクト　全コマ
プリント指定　コマを指定

⚠このコマを消去しますか？
はい　いいえ

5. 実行ボタンを押します。
6. 左キーで「はい」を選択します。
7. もう一度実行ボタンを押します。

各部の名称

*の付いたところは、直接手で触れないでください。(　)内は参照ページです。

カメラボディ

撮影／アクセスランプ

緑色点灯	撮影できます。
緑色すばやく点滅	ピントが合いません（P.30）。
緑色ゆっくり点滅	手ぶれに注意してください。
赤色点灯	カメラが起動中です。
赤色すばやく点滅	フラッシュ充電中（P.32）、または電池容量がありません（P.20）。シャッターボタンを押した時に点滅すれば、カードに空きがない（液晶モニターに赤の000が点灯、P.26）、またはカードがロックされている（P.22）か認識できません。
ｵﾚﾝｼﾞ色すばやく点滅	カードに記録中です。電池室／カードスロットふたを開けないでください。

液晶モニター（撮影モード時）

液晶モニター（再生モード時）

基本撮影

この章では、カメラの準備および最も基本的な撮影方法・再生方法を説明しています。

ストラップの取り付け方

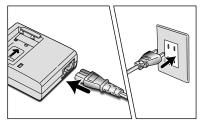
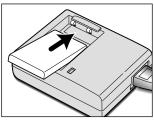
1.ストラップ取り付け部に、ストラップの短い方を通します。

- 先端を細くして通してください。
- 取り付け部に対して垂直に押し込むようにすると通りやすくなります。通らない場合は、先の細い物で先端を引っ張り出してください。

2.通したストラップの輪に、もう一方の端を通して引っ張ります。

電池を入れる

このカメラでは、付属の専用電池（リチウムイオン電池NP-200）を使用します。お買い上げの際には電池の充電はされていません。付属の充電器で完全に充電してからお使いください。

電池を充電する

1.電源コードを、充電器の電源ソケットとコンセントにそれぞれ差し込みます。

2.電池を充電器に取り付けます。

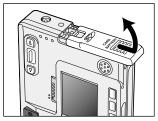
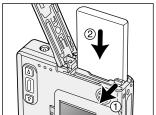
● 接点部分を先に、文字面を上にして入れてください。

● 充電が開始されます。充電中は充電ランプが点灯します。
● 充電時間は約80分です。

3.充電ランプが消えたら充電完了です。

● 電池を取り出して、コードをコンセントから抜いてください。

● 電池の充電は、ご使用の直前か前日ぐらいにされることをおすすめします。充電した状態で長時間放置すると、自然に放電され、使用できる時間が短くなります。
● 電池の状態によっては、充電器に取り付けた後充電開始までに数秒かかることがあります。
● 保管するときは、ほぼ使い切った状態での保管をおすすめします。フル充電状態での保管は避けてください。
● 完全に放電してしまうと、充電しても使えなくなることがあります。少なくとも半年に1回5分程度の充電をされることをおすすめします。
● 充電しても著しく撮影枚数が少ない場合は、電池の寿命です。新しい電池をご購入ください。

電池を入れる

1.電池室／カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.電池ロックレバーを図の方向に押しながら①、接点を先に、文字面をカメラ前面側にして電池を入れます②。

3.電池室を閉めます。

● 最後まで確実に閉めてください。

⚠日付/時刻を設定してください

● 長時間電池を抜いたままにしておくと、日時の設定が失われます。左のメッセージが現れたら、日時を再設定してください。

電池容量の確認

メインスイッチを押して電源を入れたり、撮影・再生モードを切り替えたりすると、電池の容量が液晶表示部に表示されます。

 電池容量は十分です。（3秒間のみ表示）

 電池容量が少なくなりました。（3秒間のみ表示）
節電のためフラッシュ発光直後は液晶モニターが消灯します。

 （赤色になった場合）電池の交換をおすすめします。
この状態でも撮影はできます。

赤ランプが3秒間すばやく点滅（左図）、または「電池がなくなりました」というメッセージが現れる
電池を充電するか、新しい電池と交換してください。
シャッターは切れません。

- 何も表示されないときは、電池が充電されているかどうか確認してください。
- 長時間の撮影、再生、パソコン接続時には、別売りのACアダプターAC-4の使用をおすすめします。

オートパワーオフ（操作しないでいると自動的に電源が切れます）

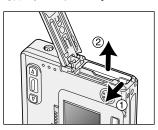
約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的にカメラの電源が切れます（オートパワーオフ）。撮影を再開する場合は、もう一度メインスイッチを押して電源を入れてください。

- オートパワーオフまでの時間（初期設定は3分）を変更することもできます。→P.62

電池の追加購入

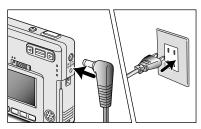
このカメラの専用電池（リチウムイオン電池NP-200）を追加で購入される場合は、お買い求めの販売店もしくは「アフターサービスのご案内」に記載の弊社サービスセンター・サービスステーションにてご購入ください。

電池を取り出す

電池を取り出すときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから取り出してください。

1. 電池室／カードスロットふたを開けます。

2. 電池ロックレバーを図の方向に押して①、電池を取り出します②。

ACアダプター（別売り）

屋内などAC電源が使える場合は、別売りのACアダプター AC-4を使用すると、電池の残りを気にすることなく撮影ができて便利です。

接続のしかた

1. カメラの電源が入っていないのを確認してから、DC電源入力端子にACアダプターを接続します。
2. ACアダプターをコンセントに差し込みます。

取り外し方

カメラのメインスイッチを押して電源を切ってから、ACアダプターを取り外します。

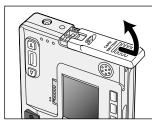
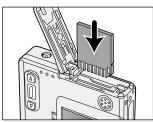
カードを入れる／取り出す

入れ方

画像を記録するには、SDメモリーカードまたはマルチメディアカード（以下カード）が必要です。付属のSDメモリーカードは、そのままこのカメラに入れてお使いになれます。

ライトプロテクトスイッチ

● SDメモリーカードには、ライトプロテクト（書き込み禁止）スイッチがついています。このスイッチを下にスライドさせると、カードへのデータ書き込みが禁止され、カード内の画像等を保護することができます。書き込みする際には、スイッチを上に上げてください。

カードを入れるときには、電源が入っていない（＝カメラがOFFになっている）のを確認してから入れてください。

1.電池室／カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.カードのラベルをカメラの前面側、接点を背面側に向け、ラベル上の▲マークを挿入口に向けて、カチッと音がするまで押し込みます。

● 中央をまっすぐに押し込みます。端を押し込まないでください。
● カードが奥まで入らない場合は、無理に押し込まずに、カードの向きを確かめて正しく入れ直してください。
● 奥まで入ると、カードはロックされます。

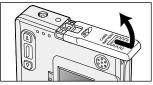
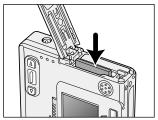
3.ふたを閉めます。

● 閉まらない場合は、下の要領でカードを一度押し込んでから取り出し、向きを確かめて正しく入れ直してください。

● カードを入れないまま撮影しようとすると、「カードが入っていません」というメッセージが現れます。
● マルチメディアカードを使用した場合、SDメモリーカードと比べて撮影・再生時の動作応答時間がかなり長くなります。

取り出し方

アクセスランプ

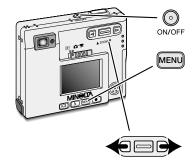
オレンジ色のアクセスランプが点滅している間は、カードを取り出さないでください。カード内のデータが破損する原因となります。

1.カメラがOFFになっているのを確認後、カードスロットふたを矢印の方向にスライドさせて開けます。

2.カードをカチッと音がするまで中に押し込みます。

● ロックが外れ、カードが出てきます。

3.カードを取り出し、ふたを閉めます。

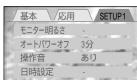
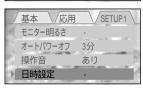
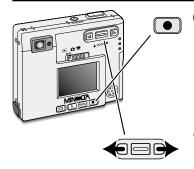
日時を設定する

カメラをご購入後初めて使用されるとき、長時間電池を抜いたままにしたときなど、「日付／時刻を設定してください」というメッセージが現れたら、日時の設定を行なってください。また日時の変更が必要な場合も、以下の手順に従ってください。

⚠日付/時刻を設定してください

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

2.メニューボタンを押します。

基本 応用 SETUP1
ドライブモード 1コマ撮影
画像サイズ 1600x1200
画質 スタンダード
ホワイトバランス Auto

3.左右キーで「SETUP1」を選びます。

4.上下レバーで「日時設定」を選びます。

5.右キーを押します。

6.実行ボタンを押します。
● 日時修正画面になります。

7.左右キーで修正したい項目を選びます。

8.上下レバーで希望の数値を選びます。

9.必要なだけ7、8の操作を繰り返します。

10.修正が終了すると、実行ボタンを押します。
● 時計がスタートします。

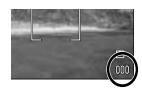
11.メニューボタンを押すと元の画面に戻ります。

撮影の準備

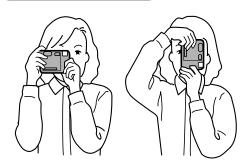
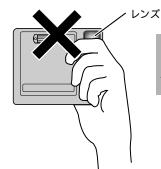
撮影残り画像数

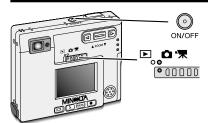
カードを入れてメインスイッチをONにすると、液晶モニター右下に撮影残り画像数（現在の設定で撮影を続けると、後何枚撮影できるか）が表示されます。

1枚のカードに記録できる画像数は、カードの容量、カメラで設定された画像サイズおよび画質によって異なります。付属のカード（8MB）で初期設定（画像サイズ1600×1200、画質スタンダード）で撮影する場合、記録できる画像数は約13枚です。

● 異なる容量のカードを使用した場合や、画像サイズ・画質を変更した場合、また動画撮影を行なった場合は、撮影できる画像数は大きく変わります。※詳細は →P.54

●「000」が赤字で表示されたときは、カードがいっぱいです。（シャッターボタンを半押しすると、ファインダー横の赤ランプがすばやく点滅します。）画像サイズまたは画質を変更する、カード内の画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。
画像サイズの変更 →P.50
画質の変更 →P.52
画像の消去 →P.78

● ファイルサイズは被写体によって異なるため、撮影シーンによっては撮影できる枚数が途中で変化することがあります。
● 残り画像数が999枚を超える場合は、999と表示されます。

カメラの構え方

手ぶれが起こらないよう、脇を締め、両手でしっかりとカメラを構えて撮影してください。ファインダーをのぞいて撮影すると、手ぶれが起こりにくくなります。
● 縦位置で撮影するときは、フラッシュをレンズより上にしてください。
● ファインダーを使って撮影するときは、液晶モニターをOFFにすると電池の消耗を軽減することができます。→P.33
● レンズやフラッシュなど、カメラの前面に指や髪、ストラップがかからないようにしてください。

レンズに指をかけないように！
ファインダーを使って撮影すると、レンズに指がかかっていても見えません。失敗の原因となるので注意してください。

撮影する

1.メインスイッチを押して電源を入れます。

2.モード切り替えレバーを 📷・🎥 に合わせます。

● 撮影モードになります。

3.液晶モニターまたはファインダーをのぞいて構図を決め、上下レバーでズームして大きさを決めます。

● レバーを上に押すと望遠に、下に押すと広角になります。

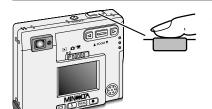
● 液晶モニター内の［ ］中のものにピントが合います。
※ピントが合わないときは →P.30

● 撮りたいものから25cm以上離れてください。

4.シャッターボタンを半押しします。

● シャッターボタンを軽く押すと、途中で少し止まるところがあります。そこまで押すことを「半押し」と呼びます。

● シャッターボタンを半押しするとピントが合います。ピントが合うと、液晶モニター右下には白い○が、ファインダー横では緑ランプが点灯します。

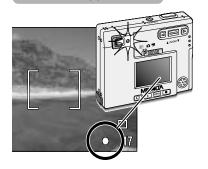
※半押ししたときのその他の表示については →次ページ

5.シャッターボタンをゆっくり押し込んで撮影します。

● 撮影された画像は自動的にカードに記録（書き込み）されます。書き込み中はオレンジ色のアクセスランプが点滅します。その間は電池室／カードスロットふたを開けないでください。

● シャッターボタンを半押しした時に現れる表示の意味は以下の通りです。

ファインダー横 撮影／アクセスランプ	液晶モニター 右下の表示	状況
緑色点灯	白色点灯	ピントが合っています。撮影できます。
緑色すばやく点滅	赤色点灯	ピントが合わない、または撮りたいものに近づき過ぎています（P.30）。
緑色ゆっくり点滅	✋	シャッター速度が遅くなっています。手ぶれに注意するか、三脚を使って撮影してください。
赤色すばやく点滅	赤色000	カードに空きがありません（P.26）。

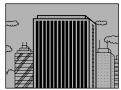
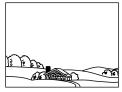
● 撮影終了後は、メインスイッチを押して電源を切ってください。

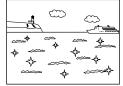
ピント合わせ

シャッターボタンを半押しすると、自動的にピント合わせが行われ、[　]の中のものにピントが合います。ピントが合うと、ファインダー横の緑ランプと、液晶モニターの白色のフォーカス表示○が点灯します。

緑ランプがすばやく点滅し、赤い●が点灯したときは、ピントが合っていません。以下を確認してください。
・撮りたいものから25cm以上離れていますか？
・オートフォーカスの苦手な被写体（以下参照）を撮影しようとしていませんか？

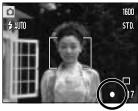
● ピントが合わない場合にそのまま撮影すると、カメラから2m離れた場所にピントが合います。

オートフォーカスの苦手な被写体

オートフォーカスのピント合わせは被写体のコントラスト（明暗差）を利用しています。したがって、次のような被写体ではオートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。このような場合は、次ページのフォーカスロック撮影で、被写体と同じ距離にあるものにピントを固定して撮影してください。

暗すぎるもの

青空や白壁など
コントラストのないもの

[　]の中に
距離の異なるものが
混じっているとき

太陽のように
明るいものや、
車のボディ、水面など
きらきら輝いているもの

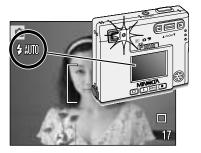
ピントを合わせたいものが画面中央にないとき

ピントを合わせたいものが画面中央にないときに、そのまま撮影すると、中心部の背景にピントが合って人物がぼけてしまいます。このようなときは、次のようにしてピントを固定（フォーカスロック）して撮影してください。

1. ピントを合わせたいものに[　]を合わせ、シャッターボタンを半押しします。

● 液晶モニター右下の白い○と、ファインダー横の緑ランプが点灯します。

2. シャッターボタンを半押ししたまま、撮りたい構図に戻します。

3. シャッターボタンを押し込んで撮影します。

フラッシュ撮影

メインスイッチを押して電源を入れるたびに、フラッシュは自動発光 AUTO となり、必要時には自動的に発光します。
※フラッシュモードを変更するには →P.37

- シャッターボタンを半押ししたときにファインダー横の赤ランプが点滅したら、フラッシュが充電中です。半押ししたときに緑ランプが点灯すれば、充電完了で撮影できます。

広角側：0.25〜2.9m
望遠側：0.25〜2.3m

夜景など暗い場合は、フラッシュが発光しても遠くの景色は写りません。

フラッシュの光が届く範囲には限度があります。最広角側では2.9m、最望遠側では2.3mを目安に撮影してください。

近くのものを撮影するとき

広角側で1m、望遠側で3m以内のものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。

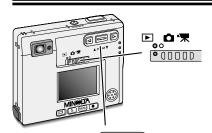
- 近くのものを撮影する場合、レンズを通って実際に記録される画像とファインダーを通して見える画像にずれが生じます。よってファインダーを使わずに液晶モニターで構図を決めてください。

画面表示の切り替え（撮影モード）

撮影モード位置（）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

- 液晶モニターをOFFにすると、電池の消耗を減らすことができます。このときはファインダーを使って撮影してください。
- 近くのものを撮影するときは、液晶モニターを使って撮影してください。→前ページ
- この使用説明書では、液晶モニターON・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については →P.16

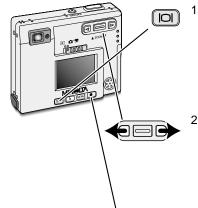
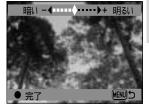
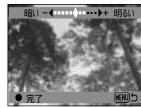
撮影した画像を見る（再生）

1.モード切り替えレバーを▶に合わせます。
- 撮影された最新の画像が表示されます。

2.左右キーで見たい画像を選びます。

- 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」と表示されます。

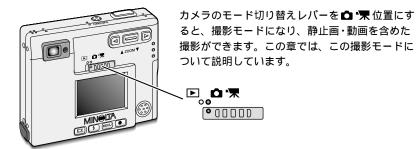
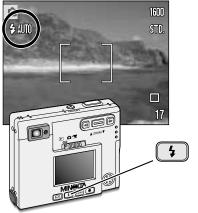
※再生モードの詳細については →P.65

液晶モニターの明るさ調整

液晶モニターの明るさを調整することができます。

1.液晶モニターボタンを2秒間押し続けます。
- 右の画面が現れます。

2.左右キーで明るさを調整します。

3.実行ボタンを押します。
- 元の画面に戻ります。
- 上の調整画面で5秒間何も操作をしないでいると、自動的に元の画面に戻ります。

- 撮影モード・再生モードのメニュー（SETUP1）でも明るさ調整は可能です。P.41またはP.75の要領で明るさ調整画面を出した後、左右キーで明るさを調整してください。
- このページの方法で液晶モニターの明るさを変えても、撮影される画像の明るさは変わりません。画像そのものの明るさを変える場合は、露出補正をお使いください。→P.40

撮影モード

カメラのモード切り替えレバーを 位置にすると、撮影モードになり、静止画・動画を含めた撮影ができます。この章では、この撮影モードについて説明しています。

フラッシュモードを設定する

メインスイッチを押して電源を入れると、フラッシュは自動発光 または赤目軽減自動発光 となり、必要なときには自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押すたびに、下の順序でフラッシュモードが切り替わります。

モード	説明
自動発光	必要時にはフラッシュが自動的に発光します。→P.38
赤目軽減自動発光	フラッシュで人物の目が赤く写るのをやわらげます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。→P.38
強制発光	フラッシュは必ず発光します。→P.38
発光禁止	フラッシュは発光しません。→P.39
夜景ポートレート	夜景を背景に人物を撮影するときに使います。→P.39

フラッシュ自動発光

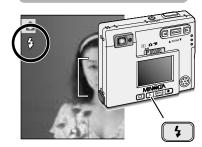
暗い場所や逆光など必要時には自動的にフラッシュが発光します。

フラッシュ赤目軽減自動発光

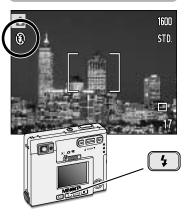
暗いところで人物を撮影すると、フラッシュの光が目の中で反射して、目が赤く写ることがあります。このモードでは撮影の直前に小光量のフラッシュが発光し、目が赤く写るのをやわらげることができます。フラッシュは必要時には自動的に発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ◉AUTO を表示させます。

- シャッターボタンを押すと、数回小光量のフラッシュが発光し、その後本発光とともに撮影されます。
- シャッターボタンを押してから撮影までの間、カメラを動かしたり写される人が動いたりしないよう注意してください。

フラッシュ強制発光

フラッシュは必ず発光します。顔の影をやわらげたい時などにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ⚡ を表示させます。

フラッシュ発光禁止

フラッシュは発光しません。美術館などフラッシュの使用が禁止されている場所や、風景・夜景などフラッシュ光が届かない被写体を撮影するときにお使いください。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ⓧ を表示させます。

- 暗いところでは手ぶれしやすいので、三脚を使用してください（液晶モニター右下に ✋ が現れ、ファインダー横の緑ランプがゆっくり点滅してお知らせします）。

夜景ポートレート

夜景を背景に記念撮影する場合、通常のフラッシュ撮影では手前の人物はきれいに写し出されますが、フラッシュ光の届かない背景は黒くつぶれてしまいます。そのような場合にこのモードを使うと、人物も背景もきれいに撮ることができます。目が赤く写るのをやわらげるため、撮影の直前に小光量のフラッシュが発光します。

フラッシュモードボタンを押して、液晶モニターに ◉👤 を表示させます。

- 手ぶれしやすいので三脚を使用してください。

画像を明るくする／暗くする（露出補正）

画像全体を明るくしたり暗くしたりします。±2.0段の範囲内で0.3段刻みで補正することができます。
＋側にすると画面全体が明るくなります。白い被写体を白く表現するときや、黒い被写体をつぶさずに描写するときなどに使います。
−側にすると画面全体が暗くなります。黒い被写体を黒く表現するときなどに使います。

撮影モード位置（📷・🎥）で、右キーまたは左キーを押します。

- 液晶モニター左側に、設定した露出補正値が表示されます。
- 右キーを押せば画面は明るくなります（＋側に露出補正）。左キーを押せば暗くなります（−側に露出補正）。

−側に露出補正　　＋側に露出補正

- 設定後、シャッターボタンを半押しすると元の画面に戻ります。

- 露出補正を解除するときは、上記の要領で±0を選んでください。メインスイッチをOFFにしても解除されます。
- 露出補正は液晶モニターを使って行なってください。液晶モニターが消灯していると設定できません。

撮影モード時のメニュー設定

メニューボタンで元に戻る

モード切り替えレバーが撮影モード位置（📷・🎥）にあるときは、以下のメニュー設定が可能です。

1. メニューボタンを押す
2. 左右キーでタブを選択
3. 上下レバーでメニューを選択
4. 右キーで移動
5. 上下レバーで設定を選択
6. 実行ボタンを押して決定

タブ	メニュー	設定	ページ
基本	ドライブモード	○1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー、動画、ボイスレコード	P.42
	画像サイズ	○1600×1200、1280×960、640×480	P.50
	画質	スーパーファイン、ファイン、○スタンダード、エコノミー	P.52
	ホワイトバランス	○AUTO、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯	P.56
応用	デジタルズーム	あり、○なし	P.58
	アフタービュー	あり、○なし	P.55
	ボイスメモ	あり、○なし	P.60
	フォルダ形式	○標準形式、日付形式	P.100
SETUP1	モニター明るさ	—	P.35
	オートパワーオフ	1分、○3分、5分、10分、30分	P.62
	操作音	○あり、なし	P.63
	日時設定	—	P.24
	日時並び	○年月日、日月年、月日年	P.64

○は初期設定値です。

ドライブモード

連続撮影やセルフタイマー、動画など、いろいろな撮影ができます。

□	1コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに、1枚ずつ撮影されます。
	連続撮影	シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。
	セルフタイマー	シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。
	動画	ビデオのように、動いているものの撮影と録音ができます。
	ボイスレコード	音声のみの録音ができます。

● メインスイッチを押してカメラの電源を入れると、1コマ撮影になります。

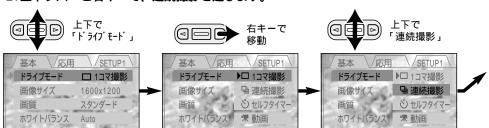
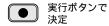
連続撮影

シャッターボタンを押し続けている間、連続して撮影されます。最高毎秒約2コマの連続撮影ができます（画像サイズ1600×1200設定時）。

1. 撮影モード位置（ ）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、連続撮影を選びます。

実行ボタンで決定

メニューボタンで元の画面へ

● 液晶モニター右下に が表示されます。

3. シャッターボタンを押し続けて撮影します。

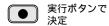
● 画質でスーパーファインを選んでいるとき（P.52）は、連続撮影はできません（1コマ撮影になります）。
● フラッシュが発光するときは、フラッシュの充電が完了してから撮影されます。
● 連続撮影できる枚数には上限があります（以下参照）。これらの値は、画像サイズや画質、被写体によって異なるので、あくまでも目安とお考えください。

		画像サイズ		
		1600x1200	1280x960	640x480
画質	エコノミー	約29枚	約44枚	約140枚
	スタンダード	約15枚	約23枚	約81枚
	ファイン	約7枚	約11枚	約44枚

セルフタイマー

シャッターボタンを押してから約10秒後に撮影されます。撮影者も一緒に写真に入るときに便利です。

1. 撮影モード位置（ ）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、セルフタイマーを選びます。

●液晶モニター右下に が表示されます。

3. シャッターボタンを半押しし、被写体にピントが合っているのを確認します。

4. シャッターボタンを押し込みます。

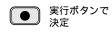
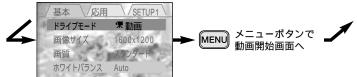
●セルフタイマーの作動中は、カメラ前面のセルフタイマーランプが点滅します。撮影直前にはランプが素早い点滅、そして点灯となり、撮影のタイミングをお知らせします。

●撮影後、セルフタイマーは解除されます。
●作動中のセルフタイマーを止めるには、上下レバーを動かすか、メインスイッチを押してカメラの電源を切ってください。

動画

連続最長35秒までの動画撮影を行なうことができます。音声も同時に記録されます。

1.撮影モード位置（）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、動画を選びます。

● 液晶モニター左上には動画の が、右下には動画の残り秒数が表示されます。

3.シャッターボタンを押して撮影を開始します。

● 撮影中は Rec が表示され、右下の残り秒数が減っていきます。

4.撮影を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

● 残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に撮影が終了します。

● 液晶モニターOFFでの動画撮影はできません。また液晶モニターをOFFにすることもできません。
● 音声なしの動画のみの記録はできません。
● 付属の8MBのカードには、合計約19秒間の動画を記録することができます。

※動画のファイルサイズについて →P.54
※動画の再生について →P.70

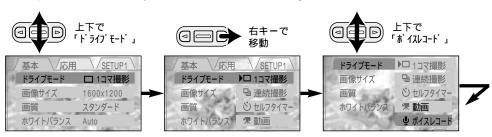
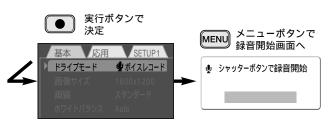
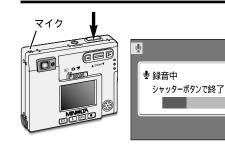
動画撮影時に設定可能・不可能な機能は以下の通りです。
● 動画撮影中でも変更可能なもの：ズーム（デジタル）
● 動画撮影中は変更できないが、あらかじめ設定しておけば可能なもの：ズーム（光学）、露出補正
● 動画撮影時には変更ができないもの：画像サイズ（320×240、QVGAに固定）、画質
● 動画撮影時には使えないもの：フラッシュ、ボイスメモ、アフレコ

ボイスレコード

連続最長90秒までの、音声のみの録音ができます。

1.撮影モード位置（静止画・動画）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、ボイスレコードを選びます。

録音中
シャッターボタンで終了
57s

3.シャッターボタンを押して録音を開始します。

- 録音中は左の表示が現れ、残り秒数が減っていきます。
- 声を録音するときは、マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

4.録音を止めるときは、もう一度シャッターボタンを押します。

- 残り秒数が0になったときは、シャッターボタンを再度押さなくても自動的に録音が終了します。
- 液晶モニターOFFでのボイスレコードの録音はできません。また液晶モニターをOFFにすることもできません。

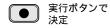
- ボイスレコードを終了して静止画・動画の撮影に戻るには、メニューボタンでメニュー画面を出し、ドライブモードを変更してください。

※ボイスレコードの再生について →P.71

画像サイズ

画像の大きさを指定することができます。3通りの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、画像サイズを選びます。

● 液晶モニター右上に、現在設定している画像サイズが表示されます。

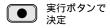
デジタル画像は縦横に細かく分割されて表現されています。例えば画像サイズ1600×1200画素の場合、画像は横に1600、縦に1200に分割され、その1点1点（画素）にそれぞれ色が付き、全体として1つの写真になっています。画像サイズとは、このように並んでいる画素の数を表し、画素またはピクセルといった単位で表されます。画像サイズを変えると、画像の精密さやパソコンに取り込んだときの大きさが変化します。
このカメラでは、画像サイズを以下の3通りから選ぶことができます。

1600 × 1200 (UXGA)	このカメラの最大の画像サイズです。パソコンに取り込んで編集するときや、プリントする場合にはこの設定をおすすめします。約200万画素の画像が撮影できます。
1280 × 960 (SXGA)	1600×1200 と 640×480 の間の大きさです。約130万画素の画像が撮影されます。
640 × 480 (VGA)	1枚のカードに最も多くの枚数を撮影することができます。ファイルサイズが小さいので、Eメールに添付するときやホームページ用の画像として最適です。

画質

画像の圧縮率を指定することができます。4通りの中から選ぶことができます。

1.撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと右キーで、画質を選びます。

●液晶モニター右上に、現在設定している画質が表示されます。

画像の圧縮率によって画質が決まります。画像を圧縮しないとファイルサイズ（次ページ）が大きくなるため、デジタルカメラでは画像を圧縮して記録する方法が一般的です。このカメラでは、初期設定（STD.）で撮影するとJPEG形式で圧縮されます。

表示	ファイル形式	説明
スーパーファイン（S.FINE）	TIFF（非圧縮）	画像が圧縮されずに、TIFF（ティフ）形式のファイルとして記録されます。パソコンに取り込んで編集する場合におすすめです。画質は最高ですがファイルサイズは大きくなります。
ファイン（FINE）	JPEG（圧縮率小）	画像がJPEG（ジェイペグ）形式で圧縮されて記録されます。圧縮率が大きくなるほどファイルサイズは小さくなり、1枚のカードに記録できる枚数が増えます。 JPEG形式で保存すると、圧縮率が大きいほど画質は劣化します。いったん劣化した画質を良くすることはできませんので、後でパソコンに取り込んで編集する場合等は慎重に行なってください。
スタンダード（STD.）	JPEG（圧縮率中）	
エコノミー（ECON.）	JPEG（圧縮率大）	

ファイルサイズと撮影画像数について

画像サイズと画質によってファイルサイズが決まり、ファイルサイズと使用しているカードの容量によって1枚のカードに記録できる撮影画像数が決まります。ファイルサイズの目安と付属のSDメモリーカード使用時の撮影画像数は以下の通りです。

●上記の値は被写体やカードによって異なるため、あくまでも目安とお考えください。

ファイルサイズ

	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約250KB	約170KB	約53KB
スタンダード	約480KB	約320KB	約90KB
ファイン	約950KB	約610KB	約170KB
スーパーファイン	約5.5MB	約3.5MB	約910KB
動画（音声付き）	約340KB／秒		
音声*	約8KB／秒		

*ボイスレコード、ボイスメモ、アフレコ

8MB SDメモリーカード使用時の撮影画像数

	1600x1200	1280x960	640x480
エコノミー	約25コマ	約39コマ	約117コマ
スタンダード	約13コマ	約20コマ	約68コマ
ファイン	約6コマ	約10コマ	約39コマ
スーパーファイン	約1コマ	約1コマ	約7コマ
動画（音声付き）	約19秒		
ボイスレコード	約842秒		

アフタービュー

撮影直後に、撮影した画像を約2秒間液晶モニターに表示させることができます（アフタービュー）。

1.撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、アフタービューあり または なし を選びます。

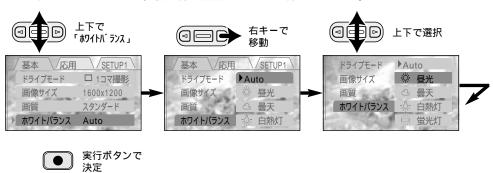
●液晶モニターOFFの状態でアフタービューありにすると、撮影画像を2秒間表示した後に液晶モニターが消灯します。

●連続撮影の場合は、最後のコマのみが表示されます。

ホワイトバランス

光源によって被写体の色は変化します。特に白いものは、光源によって青っぽくなったり黄色っぽくなったりします。これが白くなるように調整するのがホワイトバランスです。Auto（オート）にすると自動的に調整されますが、意図的に選択することもできます。

1. 撮影モード位置（📷🎥）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと右キーで、被写体を照射している光源を選びます。

● Auto（オート）以外を選択すると、液晶モニターに該当するマークが以下の通り表示されます。

- 昼光（晴れた明るい屋外）
- 曇天（曇った屋外）
- 白熱灯（タングステン光）
- 蛍光灯

● 複数の光源がある場合や、水銀灯など特殊な光源下では、正確なホワイトバランスが得られないことがあります。フラッシュの使用をおすすめします。

デジタルズーム

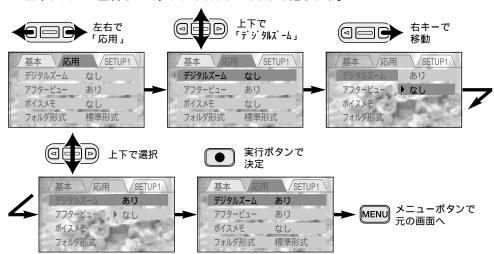
通常のズーム（光学ズーム）で最望遠側にした後、デジタルズームにより、さらに2倍まで画像を拡大することができます。

設定方法

1.撮影モード位置（ ）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、デジタルズームありを選びます。

操作方法

1.撮影モード位置（ ）で、上下レバーの上側で望遠側にズームさせます。

2.ズームを続けると自動的にデジタルズームになり、画像がさらに2倍まで拡大されます。

●液晶モニター右上に、現在のデジタルズームでの倍率が表示されます（1.25、1.50、1.75、2.00倍）。

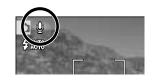
●デジタルズームは、拡大すればするほど画質は劣化します。ただしこのカメラでは画像補間が行われますので、画像サイズは変わりません。
●液晶モニターはONにしてください。OFFだとデジタルズームはできません。
●デジタルズーム後に液晶モニターをOFFにすると、デジタルズームなしの光学ズームの最望遠位置で撮影されます。

ボイスメモ

撮影直後に、最大15秒間、撮影した画像のコメント等を音声で入れることができます(ボイスメモ)。

設定方法

1. 撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2. 左右キーと上下レバーで、ボイスメモ あり を選びます。

●ボイスメモを設定すると、液晶モニター左上に音声録音を表す🎙が表示されます。

操作方法

1. 撮影します。

●直後に右の画面が現れます。撮影2秒後から録音は始まります。（アフタービューありの場合は、2秒間のアフタービューの後すぐ録音が始まります。）

マイク

2. マイクに向かって話します。

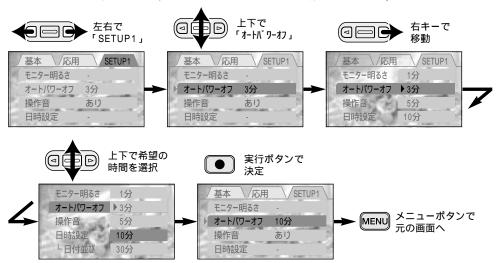
3. 録音を終了するときは実行ボタンを押します。

●ボイスメモは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
●録音するときは、マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大きな声で話すと、再生時に音が割れることがあります。
●連続撮影の場合、最後のコマにだけボイスメモを付けることができます。
●動画とボイスレコードにはボイスメモを付けることはできません。

オートパワーオフ

初期設定では、約3分以上何も操作をしないでいると、節電のため自動的に電源が切れ、液晶モニターの表示が消灯します（オートパワーオフ）。このオートパワーオフまでの時間を変更することができます。

1.撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2.左右キーと上下レバーで、オートパワーオフまでの時間を選びます。

操作音の設定

ボタンを押したときやシャッターを切ったときに出る音を消すことができます。

1.撮影モード位置（📷・🎥）で、メニューボタンを押します。

2.左右キーと上下レバーで、操作音あり または なし を選びます。

●音の大きさ（音量）を変更することはできません。

日時並びの変更

「年月日」の並び順を、「月日年」または「日月年」に変えることができます。

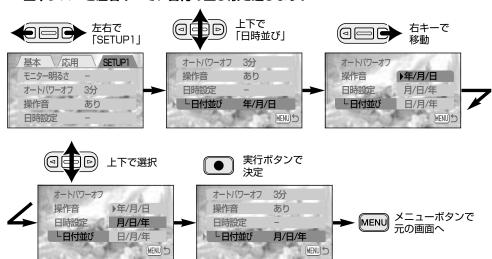
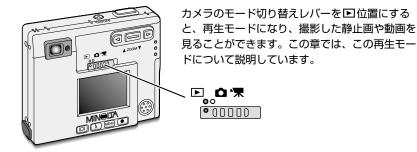
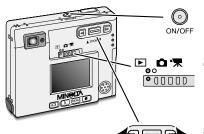
※日時の変更については →P.24

1. 撮影モード位置（ ）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、日付の並び順を選びます。

再生モード

カメラのモード切り替えレバーを 位置にすると、再生モードになり、撮影した静止画や動画を見ることができます。この章では、この再生モードについて説明しています。

再生する

1. メインスイッチを押して電源を入れます。

2. モード切り替えレバーを▶に合わせます。

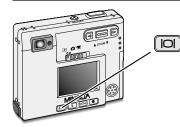
● 撮影された最新の画像が表示されます。

3. 左右キーで見たい画像を選びます。

古い画像　　新しい画像

左キー　　右キー

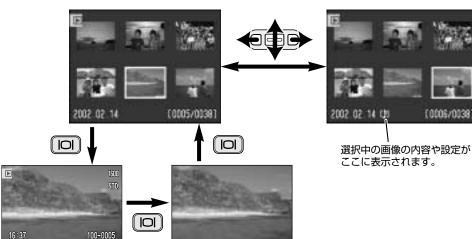
● 画像が記録されていない場合は、「画像がありません」というメッセージが現れます。

画面表示の切り替え

再生モード位置（▶）で液晶モニターボタンを押すと、以下の通り表示を切り替えることができます。

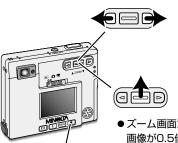
● この使用説明書では、1コマ再生・表示あり（左端）の状態で説明しています。

※各表示については →P.16

インデックス再生

インデックス再生時は、上下レバーと左右キーで、見たい画像を選択することができます。液晶モニターボタンで1コマ再生にすると、選択している画像が液晶モニターに表示されます。

拡大再生

再生画像を最大4倍にまで拡大することができます。

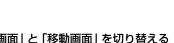
● 動画の拡大再生はできません。

1. 再生モード位置（▶）で、左右キーで見たい画像を選びます。

2. 上下レバーを上に押します。

● ズーム画面が現れ、レバーを上に押すたびに画像が0.5倍ずつ、1.5倍から4倍まで拡大されます。下に押すと縮小されます。

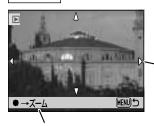
● 現在の拡大倍率が画面右上に表示されます。

● メニューボタンを押すと拡大前の画像に戻ります。

拡大再生中に実行ボタンを押すと、「ズーム画面」と「移動画面」を切り替えることができます。

ズーム画面

実行ボタンを押すと移動画面になる

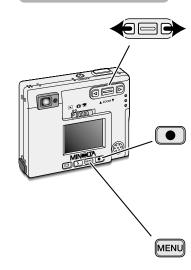
移動画面

実行ボタンを押すとズーム画面になる

「移動」選択中は、上下レバーまたは左右キーで、見たい部分を移動させることができます。

動画や音声付き画像の再生

動画、ボイスメモやアフレコ（P.76）と言った音声付き画像、ボイスレコードの再生方法は以下の通りです。1コマ再生またはインデックス再生で、該当する画像またはファイルを選択している状態にします。

●再生音声の音量を調節することはできません。

動画の再生

1. 動画（P.46）を選択します。

2. 実行ボタンを押すと、動画の再生が開始されます。

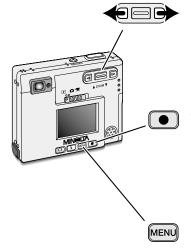
●右上の数値は経過秒数です。

●再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

●最後まで再生が終了すると、自動的に動画開始前の画面に戻ります。

●動画の拡大再生はできません。

ボイスレコードの再生

1. ボイスレコード（P.48）を選択します。

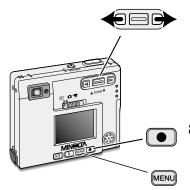
2. 実行ボタンを押すと、ボイスレコードの再生が開始されます。

●右上の数値は経過秒数です。

●再生中に実行ボタンを押すと、一時停止・再スタートを繰り返します。

3. 再生を終えるときは、メニューボタンを押します。

●最後まで再生が終了すると、自動的に開始前の画面に戻ります。

音声（ボイスメモ・アフレコ）付き画像の再生

1. ボイスメモ（P.60）またはアフレコ（P.76）付き画像を選択します。

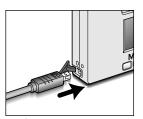
● 画面下に 🕪 が表示されます。

2. 実行ボタンを押すと、音声が再生されます。

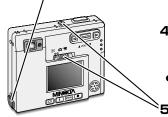
● 右上の数値は経過秒数です。

● 途中で終えるときは、メニューボタンを押してください。

画像をテレビに映して見る

付属のAVケーブルAVC-200でカメラとテレビを接続して、撮影した画像や音声をテレビで見たり聞いたりすることができます。

1. カメラとテレビの電源を切ります。

2. AVケーブルのミニプラグ側を、カメラ側面のUSB／AV出力端子に差し込みます。

3. AVケーブルのもう一方の、黄色のプラグをテレビのビデオ入力端子（通常は黄色）に、白色のプラグを音声入力端子（通常は白色）に差し込みます。

4. テレビの電源を入れ、テレビの［テレビ／ビデオ切替］などで、ビデオ入力端子からの入力に切り替えます。

● 詳しくはお使いのテレビの使用説明書をご覧ください。

5. カメラのメインスイッチを押して電源を入れ、モード切り替えレバーを ▶ に合わせます。

● 上記の操作で、カメラの液晶モニターに現れる画像がそのままテレビに映ります。通常の再生モードと同様に、表示の切り替え等行なうことができます。

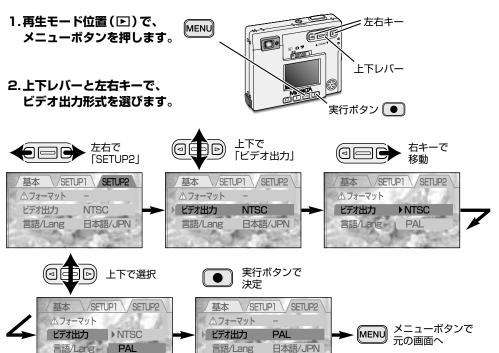
● 音声はテレビ側から再生されます。

● 上記の操作で万一画像がテレビに映らない場合は、ビデオ出力形式を確認してください。→次ページ

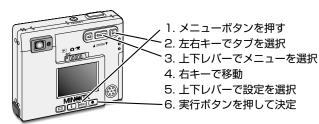
ビデオ出力形式の切り替え

ビデオの信号形式には数パターンがあり、国によって異なります。日本やアメリカ等ではNTSC、ヨーロッパの多くの国々ではPALが採用され、両者の間には互換性がありません。このカメラの画像を日本国外のテレビで見る際には、その国に合わせた信号形式に設定してください。
このカメラでは、NTSCとPALの2つの設定が可能です。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、ビデオ出力形式を選びます。

再生モード時のメニュー設定

メニューボタンで元に戻る

モード切り替えレバーが再生モード位置（▶）にあるときは、以下のメニュー設定が可能です。

タブ	メニュー	設定	ページ
基本	アフレコ	実行する	P.76
	消去	○このコマ、全コマ、コマを指定	P.78
	プロテクト	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し	P.80
	プリント指定	○このコマ、全コマ、コマを指定、全コマ取り消し	P.82
	インデックスプリント	する、○しない	P.86
SETUP1	モニター明るさ	−5〜−1、○0、+1〜+5	P.35
	オートパワーオフ	1分、○3分、5分、10分、30分	P.62
	操作音	○あり、なし	P.63
	日時設定	—	P.24
	日時並び	○年月日、日月年、月日年	P.64
SETUP2	フォーマット	実行する	P.88
	ビデオ出力	○NTSC、PAL	P.74
	言語／Lang	○日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語	P.90

○は初期設定値です。

※SETUP1は、撮影モードでのSETUP1（P.41）と同一です。

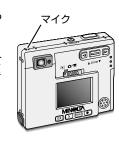
アフレコ

撮影後、画像に音声を付けることができます。最大15秒間の録音が可能です。
※アフレコ　=　アフターレコーディング（After recording）の略

1.再生モード位置（▶）で、音声を付けたい画像を選びます。

2.メニューボタンを押します。 MENU

3.上下レバーと左右キーで、アフレコを実行します。

録音が開始されます。マイクに向かって話します。
- 声を録音するときは、マイクから20cmくらい離れたところから話してください。大声で話すと、再生時に音が割れることがあります。

3.録音を終了するときは実行ボタンを押します。

- アフレコは最大15秒間可能です。15秒経過すると、自動的に録音は終了します。
- メニューボタンを押すと元の画面に戻ります。

- アフレコを付けた画像には、液晶モニターに 🕪 が表示されます。

- すでに音声（ボイスメモまたはアフレコ）が付いている場合、左のメッセージが表示されます。上書きする場合は「はい」を選択し、実行ボタンを押すと、前の音声を上書きして新たな音声が録音されます。

- 動画とボイスレコード、およびプロテクト（P.80）をかけた画像にはアフレコを付けることはできません。

アフレコの再生

画像表示後、実行ボタンを押して音声を再生させてください。
→P.72

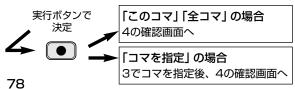
画像を消去する

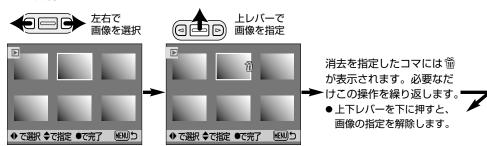
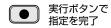
画像を消去します。以下の3通りの消去方法があります。
このコマ（1コマ消去）：　再生中の画像を1コマだけ消去します。
全コマ（全コマ消去）：　カード内の画像すべてを消去します。
コマを指定：　指定した画像だけを消去します。

● ボイスレコードも同様に消去できます。また音声付き画像の場合、画像を消去すると音声も同時に消去されます。

いったん消去した画像を復活させることはできません。

1. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーで消去するコマを指定し、実行ボタンで実行します。

消去を指定したコマには 🗑 が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。
● 上下レバーを下に押すと、画像の指定を解除します。

● 実行ボタンを押すと、4の消去確認画面に進みます。
● 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、元の画面に戻ります。

プロテクトされています

上のメッセージが現れる場合は、画像がプロテクト（誤消去防止、→次ページ）されています。該当する画像は消去できません。

4. 確認後、消去します。（下図は全コマ消去の場合）

左右で選択

実行ボタンで
決定

MENU **消去完了**
メニューボタンで元の画面へ

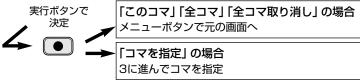
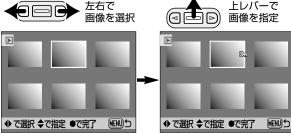
画像の消去

大事な画像を残す（プロテクト、誤消去防止）

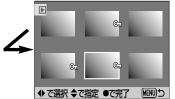
撮影した画像（音声も含む）にプロテクトをかけ、間違って消去してしまわないようにすることができます。以下の4通りのプロテクト方法があります。

このコマ（1コマプロテクト）：	再生中の画像1コマだけにプロテクトをかけます。 1コマだけプロテクトを取り消す場合にも使えます。
全コマ（全コマプロテクト）：	カード内の画像すべてにプロテクトをかけます。
コマを指定：	指定した画像だけにプロテクトをかけます。
全コマ取り消し：	カード内の画像すべてのプロテクトを取り消します。

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

3.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでプロテクトをかける（または解除する）コマを指定し、実行ボタンで実行します。

プロテクトを指定したコマには🔑が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 上下レバーを下に押すと、画像の指定を解除します。

実行ボタンで指定を完了

- 実行ボタンを押すと、プロテクトが完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、元の画面に戻ります。

- 全コマ取り消しの場合は右の確認画面が現れます。左右キーで選択後、実行ボタンで実行してください。

全コマ取り消しますか?
はい　いいえ

- プロテクトのかかった画像には、液晶モニターに🔑が表示されます。

プリント指定

このカメラでプリント指定したカードを、DPOF*対応のプリント店に渡せば、画像のプリントをしてもらうことができます。どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。
同様に、DPOF対応のプリンタにカードをセットすると、パソコンを介さずに直接画像をプリントすることができます。この場合も、どの画像を何枚プリントするかを、あらかじめカメラで指定しておくことができます。

*DPOF＝ディーポフ、Ditigal Print Order Formatの略。SDメモリーカード等のメディアに入っているデータのうち、どれを印刷するのかを指定する方法。

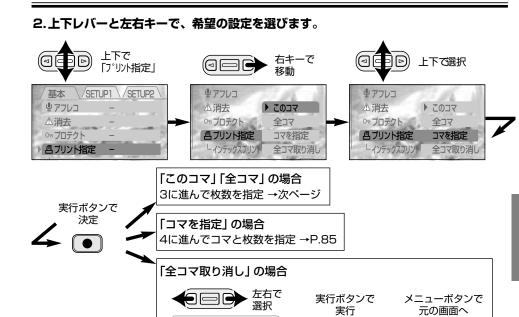
プリントする画像を選ぶ

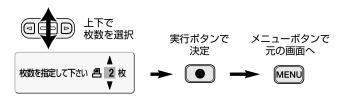
どの画像を何枚プリントするかを指定することができます。以下の3通りの指定方法があります。

このコマ（1コマプリント）：　再生中の画像を1コマだけプリントします。
1コマだけプリント指定を取り消す場合にも使えます。
全コマ（全コマプリント）：　カード内の画像すべてをプリントします。
コマを指定：　指定した画像だけをプリントします。
全コマ取り消し：　カード内の画像すべてのプリント指定を取り消します。

●動画とボイスレコードのプリント指定はできません。

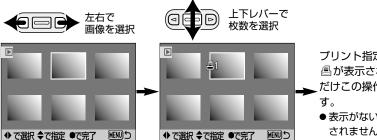
1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

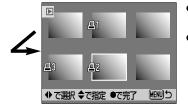
2.上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

3.「このコマ」「全コマ」の場合、上下レバーで希望の枚数を選び、実行ボタンで実行します。

- 1コマプリント（このコマ）の場合、現在表示中のコマのプリント枚数を選ぶことができます（0〜9枚）。
- 全コマプリントの場合、全コマとも同じプリント枚数しか選べません（0〜9枚）。

- プリント指定された画像には、液晶モニターに🖶が表示されます。
  🖶のみで数字がなければ、プリント指定枚数は1枚です。
  🖶の横に数字があれば、その枚数分プリント指定されています。

- 全コマプリント指定後に撮影した画像は、プリント指定されません。

4.「コマを指定」の場合、左右キーと上下レバーでプリントするコマを指定して枚数を選び、実行ボタンで実行します。

プリント指定したコマには🖶が表示されます。必要なだけこの操作を繰り返します。

- 表示がない場合はプリントされません。

実行ボタンで
指定を完了

- 実行ボタンを押すと、プリント指定が完了します。その後メニューボタンで元の画面に戻ります。
- 実行ボタンの代わりにメニューボタンを押すと、画像の指定が解除され、元の画面に戻ります。

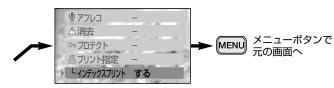
- プリント指定された画像には、液晶モニターに🖶が表示されます。
  🖶のみで数字がなければ、プリント指定枚数は1枚です。
  🖶の横に数字があれば、その枚数分プリント指定されています。

インデックスプリント

カードに記録されているすべての画像をまとめてプリントすることができます（インデックスプリント）。このカメラでは、1コマずつのプリントと合わせて、このインデックスプリントの有無を指定することができます。初期設定ではインデックスプリントはされません。

● 1枚のプリントに印刷される画像の数や形式は、プリンタによって異なります。

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2.上下レバーと左右キーで、希望の設定を選びます。

● インデックスプリント設定後に撮影した画像は、インデックスプリントには含まれません。

インデックスプリント

デジカメで撮影した画像をプリントする方法について

デジカメで撮影した画像をプリントする方法はいくつかあります。

1. ご自分のプリンタで印刷する。
画像をパソコンに取り込んでそこから印刷できます（パソコンへの接続に関してはP.91〜）。プリンタによっては、パソコンを介さずに直接カードから印刷できるものもあります。

2. ご購入店やカメラ店などにプリントを依頼する
カードをお店にお持ちになると、普通のフィルムと同様にプリントすることができます。

3. ネットプリントを利用する
インターネットを介してプリントの依頼をすることができます。ミノルタ クラブ・フォトナビゲーションに登録後、そちらのサービスをご利用ください。
http://www.photo.minolta.co.jp

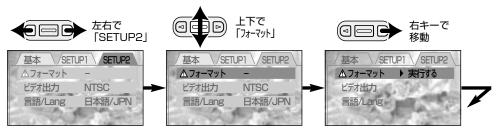
カードをフォーマット（初期化）する

カード内の画像をすべて消去するときには、フォーマット（初期化）が便利です。フォーマットにより、カードはご購入時の状態に戻ります。

フォーマットを行なうと、プロテクトをかけた画像も含めてすべての画像が消去されます。

1. フォーマットするカードをカメラに入れます。

2. 再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

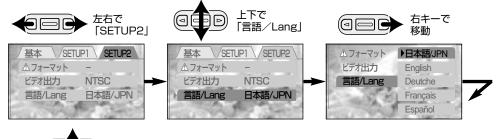
3. 左右キーと上下レバーで、カードのフォーマットを選択します。

フォーマット中は、オレンジ色のアクセスランプがすばやく点滅します。点滅中はカードを抜かないでください。

- カードのフォーマットはこのページの要領でカメラ側で行なってください。パソコンでカードのフォーマットをすると、カメラでカードが認識できないことがあります。

言語を設定する

メニューの表示言語を、5カ国語の中から選ぶことができます。

1.再生モード位置（▶）で、メニューボタンを押します。

2.左右キーと上下レバーで、言語を選択します。

上から順に、日本語、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語を表します。

パソコンで画像を見る

パソコンをお持ちの場合、撮影した画像をパソコンに取り込み、保存や整理を行なうことができます。

動作環境

以下のパーソナルコンピュータ（以下パソコン）をお持ちの場合、付属のUSBケーブルでカメラをパソコンに接続して、画像をパソコンに取り込むことが可能です（USBマスストレージ対応）。

コンピュータ	IBM PC/AT互換機 （NEC PC98-NXシリーズを含む）	Apple Macintosh
OS	Windows XP、Windows Me、 Windows 2000 Professional、 Windows 98、98 Second Editionが インストール済み	Mac OS 8.6～9.2.1、 Mac OS X 10.1が インストール済み
その他	USBポート標準装備	USBポート標準装備

- ご使用のOSの環境において、USBポートがパソコンメーカーに動作保証されていることが必要です。詳細はパソコンメーカーにお問い合わせください。
- ハブ接続した場合は、正常に動作しない場合があります。その場合はパソコン本体のUSBポートに直接接続してください。
- 自作機、ショップブランドなどの各種ボード類を含めて組み立てられた機種は除きます。
- Windows 95やNT4.0は、USB接続は動作保証対象外ですが、市販のPCカードアダプタ等を用いてカードの画像を直接パソコンで読み取ることは可能です。

お持ちのパソコンにより、画像を表示させる方法は異なります。

Windows XP、Me、2000の場合

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.94
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGE Image Viewer Utilityをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→P.108

Windows 98または98SEの場合

付属のCD-ROMから、パソコンにUSBドライバをインストールする必要があります。→P.102
その後付属のUSBケーブルでカメラとパソコンを接続してお使いください。→P.94
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGE Image Viewer Utilityをインストールしてお使いください。
動画の再生にはQuickTimeが必要です。お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMよりインストールしてください。→P.108

Macintoshの場合（Mac OS 8.6以外）

付属のUSBケーブルで、そのままカメラとパソコンを接続してお使いになれます。→P.94
静止画は、一般的な画像表示ソフトで開けることができます。お持ちでない場合は、付属のCD-ROMより画像表示ソフトDiMAGE Image Viewer Utilityをインストールしてお使いください。※
動画再生用のQuickTimeは通常はインストール済みですので、そのまま動画を再生することができます。

※DiMAGE Image Viewer Utilityは、Mac OS Xでは動作保証対象外です。Mac OS 9.1～9.2.1にてお使いください。

Mac OS 8.6の場合

USB接続するためには、アップルコンピュータ社のサイトからドライバをダウンロードする必要があります。詳しくはアップルコンピュータ社にお問い合わせください。
http://www.apple.com
静止画および動画の再生については、その他のMacintoshと同じです。

パソコンで画像を開ける

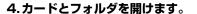
1.パソコンの電源を入れます。

2.付属のUSBケーブルの小さい方のコネクタをカメラのUSB端子に、大きいほうのコネクタをパソコン本体のUSBポートに差し込みます。

- 奥まで確実に差し込んでください。
- USB接続は、接続する際にはカメラやパソコンの電源を入れたまま行なうことができますが、取り外す際にはP.98の指示にしたがってください。

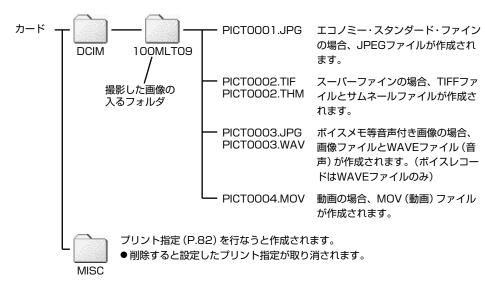
3.カメラにカードを入れ、メインスイッチを押して電源を入れます。

- 液晶モニター左上に が表示されます。

4.カードとフォルダを開けます。

Windowsでは、カードがマイ コンピュータ上に「リムーバブル ディスク」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

- Windows XPでは右の画面が現れるので、目的に応じて選択してください。

Macintoshでは、カードがデスクトップ上に「名称未設定」として現れます。ダブルクリックすると開けることができます。

カード内のフォルダとファイルの構成は以下の通りです。

画像名は、以下の通りに表されます。

例：PICT 0001 .JPG

ファイル番号　拡張子（ファイルの種類を識別する部分）

PICTの後の4桁のファイル番号は、撮影するたびに1つずつ増えて行きます。カメラ側で消去された画像の番号は欠番となります。

- お使いのパソコンの設定によっては、拡張子が表示されない場合があります。
- 撮影した日付別にフォルダが作成されるようにすることもできます。→P.100

次ページに続く

5. ファイルを開けます。

見たい画像をダブルクリックして開けます。

静止画の場合（JPEG、TIFF）

一般的な画像表示ソフト等で開くことができます。お持ちでない場合は付属のDiMAGEソフトウェアCD-ROMのDiMAGE Image Viewer Utilityをインストールしてお使いください。

音声ファイルの場合（WAVE）

OSに付属の音声再生ソフト（Media Player、QuickTime Player等）で再生することができます。（画像と同時に再生することはできません。）

動画の場合

再生するにはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のDiMAGEソフトウェアCD-ROMのQuickTimeをインストールしてお使いください。→P.108

- Macintoshの場合、通常QuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

画像をパソコンに保存するときは、ドラッグアンドドロップで任意の場所にコピーしてください。

必要な画像をパソコンに取り込んだ後は、P.98の要領で接続を解除することをおすすめします。（USB接続中はメインスイッチでカメラの電源をOFFにすることはできません。）

- パソコン接続中は、オートパワーオフ（P.62）までの時間は自動的に10分になります。10分間カメラを操作しないでいると、自動的にカメラがOFFの状態になってUSB接続が切断され、パソコンによっては「デバイスを停止させないで取り外しました」等のメッセージが出ることがあります。

- カードに該当するアイコンが表示されない（カードが認識されない）場合は、パソコンを再起動してください。それでも認識されない場合は →P.106
- カメラをパソコンに接続して作業を行なう場合は、カメラの電池容量に注意してください。データ交信中に電池がなくなると、パソコンのエラーやカード内の画像データ破損の原因となります。別売りのACアダプター AC-4の使用をおすすめします。
- カメラとパソコンを接続しているとき、特にデータの交信中（黄色のアクセスランプが点滅中）には、以下の操作はしないでください。パソコンのエラーや、カード内の画像データ破損の原因となります。
  - ・カメラのメインスイッチを押して電源を切る。
  - ・USBケーブルを取り外す。
  - ・カードまたは電池を取り出す。
- カードのフォーマットはカメラ側で行なってください（P.88）。パソコンでカードのフォーマットをすると、カメラ側でカードを認識しないことがあります。
- パソコンでカード内の画像データのファイル名を変更したり、カメラによる画像データ以外のデータを書き込んだりしないでください。カメラで再生できないだけでなく、カメラの機能に支障をきたすことがあります。
- 1秒以下のWAVE（音声）ファイルは作成されません。
- "PICT9999"まで進むと新たなフォルダが自動的に作成され（101MLT09、102MLT09・・・）、その中で再び"PICT0001"から画像の記録が開始されます。

USBケーブルの取り外し・接続中のカードの交換

USBケーブルを取り外す場合は、まず以下の操作を行なってください。パソコンに接続した状態でカメラ内のカードを交換する場合も、まずUSBケーブルを取り外してからカードを交換してください。

Windows XP、Me、2000の場合

お使いのWindows OSによって表示や文言が異なりますが、基本操作は同じです。

1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. タスクバー（パソコンの画面右下）に表示されている［ハードウェアの取り外しまたは取り出し］または［ハードウェアの安全な取り外し］のアイコンを左クリックします。

3. ［USBディスクの停止］［USB大容量記憶装置デバイスを停止します（または安全に取り外します）］を左クリックします。

4. 安全に取り外しできるというメッセージが現れます。［OK］または☒をクリックします。
5. USBケーブルを取り外します。
6. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。

● 前ページの2で、アイコンの左クリックの代わりに、ダブルクリックまたは右クリックも可能です。以下の手順に沿ってください。

1. ハードウェアの取り外し画面が現れたら、USBを選択して［停止］をクリックする。
2. ハードウェア デバイスの停止画面が現れたら、カメラを選択して［OK］をクリックする。
3. 安全に取り外しできるというメッセージが現れたら、［OK］または☒をクリックする。
4. USBケーブルを取り外す。

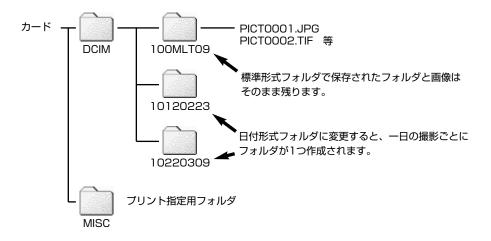
Windows 98または98 Second Editionの場合

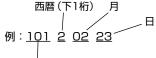
1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. USBケーブルを取り外します。
3. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。

Macintoshの場合

1. カメラのオレンジ色のアクセスランプが点滅していないことを確認します。
2. カードのアイコンをゴミ箱へ移します。
3. USBケーブルを取り外します。
4. カメラのメインスイッチを押して電源を切ります。

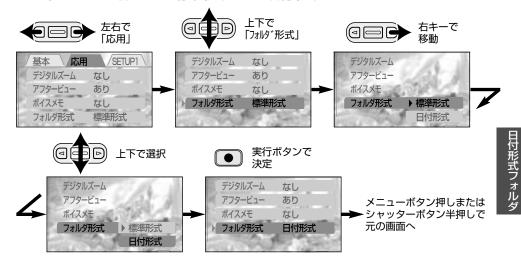
フォルダを日付別に分ける（日付形式フォルダ）

お買い上げ時のカメラの設定はミノルタ標準形式フォルダとなっており、すべての画像・音声ファイルは "100MLT09" フォルダの中に保存されます（P.95）。このフォルダを自動的に日付別に分けて保存することができます（日付形式フォルダ、以下参照）。

フォルダ名（日付）の見方

フォルダを日付形式に変更すると、フォルダ名は、以下の通りに表されます。

フォルダの通し番号
100から始まり、新しくフォルダが作成されるたびに1つずつ増えていきます。

設定方法

1. 撮影モード位置（）で、メニューボタンを押します。

2. 上下レバーと左右キーで、標準形式 または 日付形式 を選びます。

● 日付・時刻を合わせた状態でお使いください。

日付形式フォルダ

ドライバのインストール(Windows 98/98SEのみ)

Windows 98／98 Second Editionをお使いの場合、付属のDiMAGEソフトウェアCD-ROMから、パソコンにドライバをインストールする必要があります。

1. DiMAGEソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [USBデバイスドライバ インストーラの起動] をクリックします。

3. 以下のインストール確認画面が出たら、[OK] をクリックします。

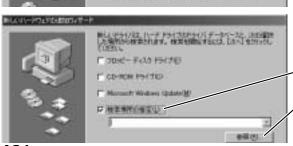
4. パソコンを再起動します。

- このカメラ (DiMAGE X) でWindows 98/98SE用のドライバをインストールした後に、ミノルタDiMAGE 7/5/S304/2330のWindows 98/98SE用ドライバをインストールすると、USB接続が認識されなくなることがあります (逆は問題ありません)。両方お持ちの場合は、DiMAGE Xのドライバをインストールするだけで上記のカメラすべてのUSB接続ができるようになります。
- お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はDiMAGE X用CD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

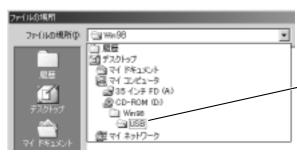
- インストール後、接続時に右の画面が現れた場合は、もう一度ドライバをインストールする必要があります。→次ページ

接続時に追加ウィザードが現れた場合

お使いのパソコンの環境によっては、P.102の要領でドライバをインストールして「インストールを完了しました。」のメッセージが表示されても、正しくインストールされていないことがあります。以下の画面が表示された場合は、次の手順に沿ってください。

1. [次へ>] をクリックします。

2. [使用中のデバイスに最適なドライバを検索する（推奨）] を選択し、[次へ>] をクリックします。

3. DiMAGEソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

4. [検索場所の指定] を選択し、[参照] をクリックします。

5. 検索場所を、[CD-ROM] − [Win98] − [USB] の順に指定します。

6. [次へ>] をクリックします。

7. ドライバが検出されインストールの準備ができると、[次へ>] をクリックします。

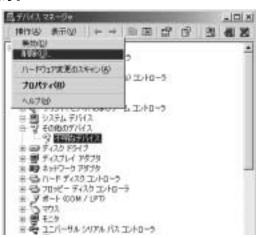
8. インストールが完了すると、[完了] をクリックします。

● お使いのパソコンの環境によっては、インストール中にWindowsシステムCD-ROMをセットするメッセージが表示されることがあります。この場合はDiMAGE X用CD-ROMをWindowsシステムCD-ROMに差し替え、メッセージに従って操作してください。

USB接続ができないときは

Windowsをお使いの場合でカメラをパソコンに接続しても認識されなかった場合は、以下の方法でUSBドライバをいったん削除（アンインストール）し、その後再度接続してください。
弊社ホームページもご覧ください。　http://www.dimage.minolta.co.jp/

Windows XP、2000の場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.94
● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
● Windows XPでデスクトップ上に「マイコンピュータ」がない場合は、[スタート] − [コントロールパネル] − ([パフォーマンスとメンテナンス]) − [システム] と選択してください。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「ハードウェア」のタブをクリックし、続いてその中の「デバイスマネージャ」をクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「USBコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の上部にある「操作」から「削除」を選んでクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。

Windows Me、98、98SEの場合

1. カメラにカードを入れ、カメラとパソコンを接続します。→P.94
● パソコンにはカメラ以外の周辺機器を接続しないでください。
2. パソコンのデスクトップ上にある「マイコンピュータ」のアイコンを右クリックし、「プロパティ」を選びます。
3. 「システムのプロパティ」が表示されるので、「デバイスマネージャ」のタブをクリックします。
4. 「その他のデバイス」または「ユニバーサルシリアルバスコントローラ」にカメラ名称を含む項目が表示されますので、その項目を選びます。
● 項目の左側に「+」が表示されているときは、まず「+」をクリックしてください。
● カメラ名称を含む項目が見当たらない場合は、「?」または「!」マークで表示されている項目を選んでください。
5. デバイスマネージャ画面の下部にある「削除」をクリックします。
6. 削除の確認画面が現れるので、「OK」をクリックします。
7. カメラの電源を切り、パソコンを再起動させます。Windows 98/98SEの場合は、この後P.102の要領で再度ドライバをインストールします。

QuickTimeのインストール（Windowsのみ）

動画の再生にはQuickTime等の動画再生ソフトが必要です。Windowsで、お使いのパソコンにインストールされていない場合は、付属のCD-ROMからインストールしてください。

- Macintoshの場合、通常はQuickTimeはインストール済みですので、そのままで動画再生が可能です。

QuickTime 5.0動作環境

- Pentiumプロセッサを搭載したPC互換コンピュータ
- 32MB以上のメモリ（RAM）
- Windows 95/98/NT/Me/2000オペレーティングシステム
- Sound Blasterおよびその互換サウンドカード、スピーカー
- DirectXバージョン3.0以降推奨

インストール方法

1. DiMAGEソフトウェアCD-ROMをパソコンのCD-ROMドライブにセットします。

- 左の画面が現れます。

2. [QuickTime インストーラの起動] をクリックします。

3. 画面の指示に従い、インストール作業を行ないます。

操作方法

1. QuickTimeを起動させます。

- QuickTime Playerのアイコンをダブルクリックするか、画面左下の［スタート］から［プログラム（P）］→［QuickTime］→［QuickTime Player］を選択します。

2. [ファイル（F）] から [ムービーを開く...（O）] を選択します。

3. 再生したい動画を選択し、[変換] をクリックします。

4. 動画ファイルを再生します。

操作方法について、詳しくはヘルプをご覧ください。

QuickTimeのインストール

その他

メッセージ表示一覧

メッセージ	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
カードが入っていません	カードが入ってないと、撮影や再生はできません。	カードを入れてください	22
カードがロックされています	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	書き込む場合は、カードのライトプロテクトスイッチを上げてください。	22
カードは使えません	カードをフォーマット（初期化）してください。それでも同じメッセージが出る場合は、カードを交換してください。		88
日付・時刻を設定してください	長時間電池を抜いたままにしておいたので、日時の設定が失われた	日時を再設定してください。（お買い上げ時にもこのメッセージが現れます。）	24
画像がありません	画像が記録されていないカードを入れて再生モードにした	画像が入っているカードを入れるか、先に撮影を行なってください。	—
表示できない画像です	他のデジタルカメラで撮影した画像などは表示できない場合があります。		—
音声を上書きしますか？	すでにボイスメモまたはアフレコが録音されている画像に、新たにアフレコを録音しようとしている	ボイスメモまたはアフレコは一回分しか録音できません。新しい音声を上書きする場合、古い音声は削除されます。	60 76
コマ指定してください	消去で「コマを指定」を選択したのに、実際に消去するコマを選ばずに実行しようとした	消去する場合は上キーでコマを指定してください。消去しない場合はメニューボタンを押してください。	79
プロテクトされています	プロテクト（誤消去防止）をかけた画像を消去しようとしている	消去する場合は、先にプロテクトを解除してから消去してください。	80

あれ？と思ったときは

故障かな？と思ったときは、次のことを調べてみてください。それでも調子が悪いときや分からないときは、裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにお問い合わせください。

症状	原因	対策	ﾍﾟｰｼﾞ
撮影ができない	SDメモリーカードが書き込み禁止になっている	撮影する場合は、ライトプロテクトスイッチを解除してください。	22
撮影・再生ができない	電池が消耗している	電池を充電してください。	18
	オートパワーオフが作動した	（初期設定では）約3分間以上何も操作をしないでいると、自動的にカメラの電源がOFFになります。	20 62
	カメラがパソコンに接続されている	パソコンに接続されている間は、撮影や再生はできません。	—
赤い000が表示され、シャッターが切れない	カードがいっぱいである	画像サイズまたは画質を変更する、画像を消去する、カードを交換する、のいずれかを行なってください。	50 52 78
液晶モニターが点灯しない	液晶モニターがOFFになっている	液晶モニターボタンを押してONにしてください。	33
緑ランプが点灯せず、すばやく点滅している	オートフォーカスの苦手な被写体（P.30）を撮ろうとしている	被写体と同じ距離にあるピントの合わせやすいものにピントを合わせて、フォーカスロック撮影を行なってください。	31
	被写体に近づき過ぎている	カメラより約25cm以上離れたものにしかピントが合いません。	30
	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
緑ランプが点灯せず、ゆっくり点滅している	フラッシュ発光禁止や夜景ポートレート撮影のため、シャッター速度が遅くなっている	三脚を使って、カメラがぶれないようにして撮影してください。	—
フラッシュ撮影したものが全体的に暗い	フラッシュ光の届く範囲で撮影しなかった	フラッシュ撮影時は、フラッシュ光の届く範囲内で撮影してください。	32
写真がブレている	暗いところでフラッシュを使わずに撮影したので、手ブレを起こした	シャッター速度が遅くなるので、三脚を使用してください。フラッシュを使う方法もあります。	—
被写体の右端が切れている	ファインダーを使って近くのものを撮影した	近距離撮影の場合、ファインダーで見る画面と撮影される画面にはずれが生じます。液晶モニターを使って撮影してください。	32
画面の一部に黒っぽいものが写っている	レンズ部分に指がかかっていた	ファインダーを使って撮影すると、レンズに指がかかっていても見えないことがあります。指をかけないようにして撮影してください。	27
光源や光がにじんだり、きれいに再現されない	レンズが汚れている	レンズ前面を清掃し、撮影時にはレンズ面に触れないようにしてください。	—
パソコンがカードを認識しない	USBドライバのインストールに失敗した	一度アンインストールを行なった後、再接続（または再インストール）を行なってください。	104 106
カメラが正常に作動しない	カメラの電源をOFFにして電池を一度取り出し、入れ直してください。ACアダプター等使用時は、一度コードを抜いてください。それでも直らない場合や何度も繰り返す場合は故障ですので、お買い求めの販売店または裏表紙記載の弊社フォトサポートセンターにご相談ください。		—

取り扱い上の注意

電池について

●電池の性能は低温になるほど低下します。低温下では、完全に充電したばかりの電池を使う、予備の電池を保温しておいて交互に使う、などに留意してご使用ください。
●いったん容量切れになった電池は必ず完全に充電してください。容量切れ後、しばらく待って、わずかながら容量が回復した状態で再びカメラの電源を入れると、カメラが正常に作動しない場合があります。

使用温度について

●このカメラの使用温度範囲は0～40℃です。
●直射日光下の車内など極度の高温下や、湿度の高いところに放置しないでください。
●カメラに急激な温度変化を与えるとカメラ内部に水滴を生じる危険性があります。スキー場のような寒い屋外から暖かい室内に持ち込む場合は、寒い屋外でカメラをビニール袋などに入れ、袋の中の空気を絞り出して密閉します。その後室内に持ち込み、周囲の温度に充分なじませてからカメラを取り出してください。

プリント指定（DPOF）について

●他のデジタルカメラでDPOF設定したカードをこのカメラに入れると、他のカメラでの設定はキャンセルされます。
●他のDCF対応のデジタルカメラで撮影した画像の入ったカードをこのカメラに入れた場合、他のカメラで撮影した画像（他のDCF対応デジタルカメラによって作成されたフォルダ内の画像）に対してはDPOFの設定はできません。

SDメモリーカード・マルチメディアカードについて

●下記の場合、記録されたデータが消去（破壊）されることがあります。データの消去については当社は一切の責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。大切なデータは、別のメディア（ハードディスク等）にバックアップを取っておくことをおすすめします。
1. お客様または第三者がカードの使い方を誤ったとき
2. カードが静電気や電気的ノイズの影響を受けたとき
3. カードへのアクセス中（記録中、フォーマット中など）に、カードを取り出したり、機器の電源を切ったとき
4. 長期間カードの書き換えがないとき
5. カードの耐用回数を超えて書き換えを行ったとき

●カードをフォーマット（初期化）すると、記録されているデータはすべて消去されます。必要なデータは必ずバックアップを取ってください。
●カードには寿命がありますので、長期間ご使用になるとデータの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいカードをお買い求めください。
●強い静電気や電気的ノイズの発生しやすい環境でのご使用、保管は避けてください
●曲げたり落としたり、強い衝撃や高熱を与えないでください。
●強い静電気や強い衝撃によってカードが破壊され、データの記録や再生ができなくなる場合があります。このときは新しいメディアをお買い求めください。
●端子部に手や金属で触れないでください。
●熱、水分、直射日光を避けて使用および保管してください。

液晶モニターについて

- 液晶モニターは精密度の高い技術でつくられていますが、極めてわずかながら画素欠けや常時点灯するものがあります。
- 液晶モニターを強く押さえないでください。画面にムラが出たり、故障の原因になります。
- 寒いところで使うと、始めは画面が通常より少し暗くなります。カメラ本体内部の温度が上がってくると、通常の明るさになります。
- 液晶表示は、低温下で反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻せば正常に作動します。
- 液晶モニターに指紋等が付着して汚れたときは、乾いた柔らかい布で、傷などがつかないよう軽くふいてください。

その他

- カメラに強い衝撃を与えないでください。
- バッグなどに入れて持ち運ぶときは、カメラの電源を切ってください。
- このカメラは防水設計にはなっていません。濡れた手で電池やカードの出し入れや、カメラの操作をしないでください。また湿度の高いところに長時間放置しないでください。
  海辺等で使用されるときは、水や砂がかからないよう特に注意してください。水、砂、ホコリ、塩分等がカメラに残っていると、故障の原因になります。
- 直接太陽を撮影したり、直射日光の当たる場所に放置しないでください。CCD（撮像素子）の性能を損なうことがあります。
- あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合があります。なお、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する場合以外はご利用いただけません。

手入れと保管のしかた

手入れのしかた

- カメラの外側を清掃するときは、柔らかいきれいな乾いた布で軽くふいてください。砂がついたときは、こするとカメラに傷をつけますので、ブロアーで軽く吹き飛ばしてください。
- レンズ面を清掃するときは、ブロアブラシでホコリ等を取り除いてください。汚れがひどい場合は、柔らかい布やレンズティッシュにレンズクリーナーを染み込ませ、レンズの中央から円を描くように軽くふいてください。レンズクリーナーを直接レンズ面にかけることはお避けください。
- シンナーやベンジンなどの有機溶剤を含むクリーナーは絶対に使用しないでください。
- レンズ面に直接指で触れないでください。

保管のしかた

- 涼しく、乾燥していて、風通しのよい、ホコリや化学薬品のないところに保管してください。長期間の保存には、密閉した容器に乾燥剤と一緒にいれるとより安全です。
- 長期間使用しないときは、カメラから電池やカードを取り出してください。
- 防虫剤の入ったタンスなどに保管しないでください。
- 保管中も時々電源を入れて、シャッターを切るようにしてください。また、ご使用前には整備点検されることをおすすめします。

海外旅行や結婚式など大切な撮影のときは

- 前もって作動の確認、またはテスト撮影をしてからご使用ください。また予備の電池を携帯することをおすすめします。
- 万一このカメラを使用中に、撮影できなかったり、不具合が生じた場合の補償についてはご容赦ください。

アフターサービスについて

- 本製品の補修用性能部品は、生産終了後7年間を目安に保有しています。
- 製品の修理に関しては、お買い上げいただいた販売店にお問い合わせいただくか、修理依頼品を「アフターサービスのご案内」に記載のサービスセンター・サービスステーションにお持ち込みください。

主な性能

カメラ本体

有効画素数	196万画素
撮像素子	1/2.7型総画素数211万画素インターラインCCD、補色フィルター付き
撮像感度	自動（ISO 100～200相当）
レンズ構成	8群9枚
焦点距離	5.7～17.1mm（35mmフィルム換算：37～111mm相当）
開放絞り値	F2.8～F3.6
撮影距離	0.25m～∞（カメラ前面から）
最大撮影倍率	0.06（35mmフィルム換算で0.40倍相当）
ズーム方式	電動ズーム
フォーカス方式	映像AF方式
ホワイトバランス	オート、昼光、曇天、白熱灯、蛍光灯
測光方式	256分割測光
シャッター	CCD電子シャッターとメカニカルシャッター併用 シャッター速度：2～1/1000秒
露出制御方式	プログラムAE
露出補正	±2EV（1/3EVステップ）
フラッシュ制御方式	プリ発光による発光量制御
フラッシュモード	自動発光／赤目軽減自動発光／強制発光／発光禁止／夜景ポートレート（赤目軽減）
フラッシュ連動距離	広角：約0.25～2.9m、望遠：約0.25～2.3m（カメラ前面から）
充電時間	約6秒
ファインダー形式	実像式光学ズームファインダー
ファインダー視野率	約75%
アイポイント	15.3mm（接眼レンズより）、14mm（接眼枠より）
A/D変換bit数	12bit
記録媒体	SDメモリーカード、マルチメディアカード
記録画像ファイルフォーマット	Exif 2.1（JPEG）、TIFF、Motion JPEG（MOV）　DCF 1.0準拠 DPOF（Ver. 1.1）のプリント機能に対応
PIM (PRINT Image Matching)	対応
記録画素数	1600×1200、1280×960、640×480
画質モード	エコノミー、スタンダード、ファイン、スーパーファイン
Exif. Tag情報	撮影年月日時分、撮影条件（露出モード、シャッター速度、絞り値、露出補正値、測光方式、フラッシュ発光の有無、撮像感度、ホワイトバランス、焦点距離等）、色空間情報
液晶モニター	3.8cm（1.5インチ）TFTカラー　モニター画素数：11万画素
連続撮影	約2コマ／秒
セルフタイマー	約10秒
動画	ファイル形式：Motion JPEG（MOV）　画素数：320×240　フレームレート：15フレーム／秒　録画時間：最大35秒　音声付き（モノラル）
音声	ボイスレコード（最大90秒）、アフレコ（最大15秒）、ボイスメモ（最大15秒） ファイル形式：WAVE　モノラル
デジタルズーム	1.25倍、1.5倍、1.75倍、2倍（静止画時）
操作音	各操作時、レリーズ時シャッター音
使用電池	専用リチウムイオン電池
外部電源	DC 4.7V（ACアダプター使用時）
連続動作時間	連続再生：約120分　当社試験条件による
撮影可能コマ数	約120コマ　当社試験条件による（専用リチウムイオン電池使用、液晶モニターON、画像サイズ1600×1200、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%） 約190コマ　当社試験条件による（専用リチウムイオン電池使用、液晶モニターOFF、画像サイズ1600×1200、画質スタンダード、アフタービューなし、ボイスメモなし、フラッシュ50%）
PCインターフェース	USB 1.1
A/V出力	NTSC／PAL切り替え可能
大きさ	84.5（幅）×72（高さ）×20（奥行き）mm
質量（重さ）	約135g（電池、記録メディア別）

リチウムイオン電池 NP-200

電圧　3.7V
容量　750mAh
大きさ　31.5（幅）× 52.0（高さ）× 6.5（奥行き）mm
質量（重さ）　約20g

充電器 BC-200

入力電圧　AC100～240V
入力周波数　50／60Hz
入力容量　10～13VA
充電出力　DC4.2V 650mA
充電時間　約80分
大きさ　65.0（幅）× 80.0（高さ）× 25.8（奥行き）mm
質量（重さ）　約75g

*充電器に付属のコードはAC100V仕様で、日本国内専用品です。海外で使われる場合は、その国に応じたACコードを最寄りの販売店または弊社サービスセンター・サービスステーションにてお求めください。

本書に記載の性能は当社試験条件によります。
本書に記載の性能および外観は、都合により予告なく変更することがあります。

動画・音声関係操作一覧

機能名	内容	撮影・録音	再生
動画	動く画像 音声付き （最大35秒）	撮影メニューのドライブモードで設定 シャッターボタンで撮影開始 シャッターボタンで撮影終了 （P.46）	動画を選んで 実行ボタン●で再生開始 メニューボタンで再生終了 （P.70）
ボイスレコード	画像なしの 音声のみの録音 （最大90秒）	撮影メニューのドライブモードで設定 シャッターボタンで録音開始 シャッターボタンで録音終了 （P.48）	ボイスレコード（青色の背景）を選んで 実行ボタン●で再生開始 メニューボタンで再生終了 （P.71）
ボイスメモ	画像に音声を 付加したもの （音声は最大15秒）	撮影メニューの応用・ボイスメモで設定 画像の撮影後、自動的に録音開始 実行ボタン●で録音終了 （P.60）	ボイスメモ付きの画像を選んで 実行ボタン●で再生開始 メニューボタンで再生終了 （P.72）
アフレコ	画像撮影後、 改めて音声を 付加したもの （音声は最大15秒）	再生メニューのアフレコで設定 設定後すぐ録音開始 実行ボタン●で録音終了 （P.76）	アフレコ付きの画像を選んで 実行ボタン●で再生開始 メニューボタンで再生終了 （P.72）

索引

ミノルタ株式会社

ホームページ

個々の製品の互換性情報や最新版ドライバソフトウェアの提供、よくある質問(FAQ)とその回答などのサポート情報については、以下フォトイメージングのホームページをご覧ください。

http://www.photo.minolta.co.jp/

弊社デジタル製品の商品情報については、以下のホームページをご覧ください。

http://www.dimage.minolta.co.jp/

フォトサポートセンター

弊社製品のカメラ、交換レンズ、デジタルカメラ、フィルムスキャナ、露出計など写真や画像に関わる製品の機能、使い方、撮影方法などのお問い合わせをお受けいたします。

ナビダイヤル 0570-007111

ナビダイヤルは、お客様が日本全国どこからかけても市内通話料金で通話していただけるシステムです。

TEL 03-5351-9410

携帯電話・PHS等をご使用の場合はこちらをご利用ください。

FAX 03-3356-6303

受付時間 10:00～18:00（土・日・祝日定休）

1AG6P1P1205--D
9223-2776-61 SY-F000